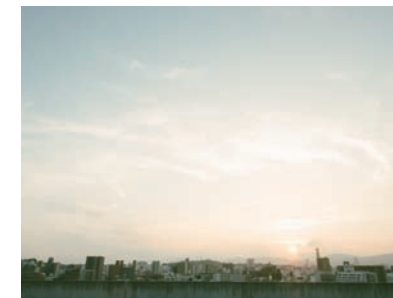


広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会

【事務局】 広島県社会福祉人材育成センター〔(社福)広島県社会福祉協議会〕

〒732-0816 広島県広島市南区比治山本町12-2 TEL. 082-256-4848

地域の★の、きみたちに



いま、ひろしまは大きく変わろうとしています。



世界でいちばんに超高齢社会を迎えた日本のなかで、ひろしまも間違いなく少子高齢化が進んでいます。

でもそれは、新しいチャンスでもあると思うのです。

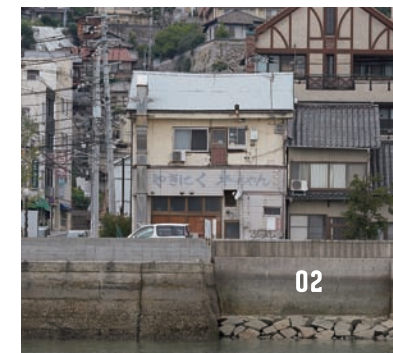
いま、ひろしまのあちこちで、お年寄りが、そして誰もが、暮らしやすい地域づくりが始まっています。

そしてその輪のなかには、必ず介護の人がいる。一人ひとりのお年寄り向き合うだけでなく、介護の仕事には、そんなチカラがあると思うのです。

そしてそこには、介護を専門に学んだ人だけでなく、いろんな経験やアイデアを持った人が必要です。

大好きな人を思いながら、地域に働きかけていく。大好きなまちを思いながら、人と人をつないでいく。

介護のちからで、ひろしまの未来をつくっていく。それがわたしたちの誇りです。





誰かと競うとかじゃなくて、
 一緒におだやかな時間を刻んでいく。
 そんな働き方が自分にはあつてるかな。

子どもの頃からおじいちゃんおばあちゃんが大好き。近所の公民館へ行っては、お年寄りに遊んでもらっているような子どもでした。進学するとき福祉系も考えていたのですが、両親の勧めで英文科へ。英文科へ入ってカリフォルニアへ短期留学をしたとき、ホームステイでお世話になったのが70～80代くらいのご夫婦でした。私がいたのは半年間でしたが、そのあいだにも体調を崩したり、体力の衰えが進んでいくのが分かって、「何かしてあげたい、手伝いたい」と強く感じるようになりました。帰国して、英語を生かせるホテルの仕事もしてみたのですが、やっぱり介護がいいって。両親に正直な気持ちを話してこの道に進みました。今は、この仕事があると実感しますね。営業成績がどうか、数字をおいかけたり、他人と比べたりするんじゃなくて、穏やかな時間を一緒に過ごしていく。自宅にいるみたいな感じで、お年寄りと接していけるのがいい。ここでは一人の人を深く知ることができるから、いろいろ発見があって勉強になるんです。留学経験ですか？そうですね。外国で言葉が通じないなかで、相手を理解しようとしてきた姿勢は役に立っているかもしれません。たとえば、認知症の方や重度の障害のある方の場合、その人の思いを感じとって、ケアしていくことが大切。こちらの対応ひとつで、穏やかに過ごしていただけるかどうかが決まるんです。就職して3年目、やっとまわりが見えるようになってきました。チームです仕事なので、自分からチームへ発信していけるようになりたいですね。



山下涼子さん(25歳)
 安田女子大学文学部英米文学科卒
 3年目
 社会福祉法人三篠会
 特別養護老人ホーム仁方
 介護職員・サブリーダー



自分も家族をつくっていきます。

大好きなこのまちで、

生まれも育ちもずっと安佐北区。



僕、ずっと安佐北区なんですよ。大学だけ安佐南区でしたけど、可部小、可部中、可部高(笑)。まさに地元ですね。うち、田んぼとか畑とかやりよるんですけど、昔からよう人が集まる家だったんです。喫茶店もやってるんで、近所の人とかよう出入りしてて、子どものときから地域の人と関わることが多かったんですよ。「ちょっと畑手伝って」とか、「運動会でザリガニ釣りするからザリガニとってきて」とか、何かという要請があって。だから、“人と関わる”この仕事は好きですね。そういえば、仕事でも「ちょっと車いすの調子をみてよ」とか、よく頼まれごとしてますね。学生時代は野球をやりよったんです。介護の勉強をしたのは、大学4年生のときにヘルパー2級を取ったくらい。かえって知識がないぶん、入りやすかったかもしれませんね。やって楽しいのは、入居さんが声をかけてくれること。僕が朝来ると、シルバーカーでダーっとかけてきてくださる方とか(笑)。ほんと、みなさんにかわいがってもらってます。今後の目標は、学んだ知識をみんなに広めていくこと。介助技術のマニュアルづくりのプロジェクトでは、動画を担当したんですけど結構好評だったんですよ。福祉用具の使い方を機器メーカーの人に聞いたり、自分で試したりしてみんなに教えることも、今ではすっかり僕の担当みたいになっていますね。私事ですが、今年結婚するんです。妻は以前の職場で一緒だった同僚。家もこの近くで、子どもは3人くらい欲しいねって話しています。



西田将士さん(27歳)
広島経済大学経済学部経済学科卒
5年目
社会福祉法人広島県同胞援護財団
特別養護老人ホーム可部南静養園
介護スタッフ・サブリーダー



仕事の流れを工夫することは、
ちよつと自信があるんです。
バイトの経験がすごく生きてますね。



選んだきっかけは、実は家の近くだったっていうのが大きくて。見学に行ってみたら、すごく落ち着いた雰囲気、利用者さんもゆっくり過ごされていて。職員さんも笑顔で、元気に働いていて楽しそうだった。仕事をはじめた頃は、利用者さんと話をしたり、笑顔を見るのが楽しくて、ウキウキしながら通ってました。特別おじいちゃん、おばあちゃんが好きというわけでもなかったんですけどね。不思議ですね。大学で勉強してきたことが生かせるかなという気持ちもあったんですが、実際、教科書を開いてみることもよくあって、もっと勉強しておいたら良かったかな。1年目の後半にサブリーダーを任されるようになりました。すごく早い昇進だったのでプレッシャーもありましたが、将来はマネジメント職を目指している、その一歩を踏み出した感じですね。仕事では、職員さんたちが気持ちよく働けるようにってことを常に心にかけています。問題が起こったらず自分でやってみて、こうしたらいいんじゃないかなって話し合ったり。仕事の流れを工夫するということは、飲食店でのバイト経験がすごく生きています。効率化できることはして利用者さんとの時間を増やせるように、どううまくやっていくかを考えるのは自分でも自信があるんですよ。もちろん、知識の面ではベテランの職員さんたちにはどうやっても勝てないですね。でも逆に、僕自身が知らない、できないからこそ良い方法を教わることができるし、周りに広めていくことができる。周りを巻き込みながらやっていく。そういうところが、今、楽しいですね。



澤井 崇哉さん(23歳)
広島工業大学情報学部健康情報学科卒
2年目
社会福祉法人信々会
特別養護老人ホーム春日野園
ショートステイ担当 介護職員・サブリーダー



ヘルプマンの 1日

短大の音楽科を卒業後、福祉の道に進んだ
神垣由紀恵さん。
東広島にあるリハビリテーション施設での
ある1日に密着しました。



職場までは車で約20分。今朝は雨が降ったから、山の緑がみずみずしい。きのう〇〇さんが足が痛いって言ってたけど大丈夫かな。今日1日の段取りは…。ちょっとずつ、介護士の顔つきになっていく。



日勤の仕事は、朝の申し送りからはじまる。容態の悪い人はいないか、利用者さんのリハビリの予定なども確認する。チームでやる仕事だから、こうした情報共有は欠かせない。一言ももらさないように、みんな真剣だ。



利用者さんのケアプランを更新するときは、ケアマネジャー、リハビリ職、看護師、栄養士、介護職、関わるスタッフが全員で話し合う。自分の知らない利用者さんのこと、専門家の意見、この仕事をしていると学ぶことがつきない。



介護の仕事が好きになるほど、お年寄りの在宅での暮らしを支えたいという想いも膨らんできた。いつか、在宅でのターミナルケア^{※1}にも関われば、とも思う。そのためにも今は勉強。ケアマネジャー資格が次の目標だ。



地元で所属している吹奏楽団の演奏会が近いから、最近は練習がちょっと忙しい。週末も練習が控えているから、通勤のお伴は、今の練習曲だ。こうして自分の時間があるからこそ、仕事にだって集中できる。そう思う。



人と話をすることは実は苦手だった。でもここへきて、人と接することが楽しくなった。利用者さんの笑顔が見られると心からほっとする。ケアをしているようでいて、ほんとは私のほうがケアされているのかもしれない。



チームに分かれて仕事に取りかかる。入浴介助、トイレ介助、部屋のそうじ、リネン類^{※2}の交換。自宅に帰るまでの間、少しでも安心してすごしてもらいたい。清潔でピンとはったシーツにはそんな思いが詰まっている。



YUKIE KAMIGAKI
神垣由紀恵さん (28歳)

広島文化短期大学音楽学科卒
医療法人社団博愛会
介護老人保健施設ささか 介護職員

※1: 終末期医療、看護。終末期の患者の身体的・精神的苦痛を緩和・軽減する措置をとる。
※2: シーツなどの寝具類



ホームヘルパー／伊藤 由美子さん



総務部次長／永井 孝一さん



ケアハウス生活相談員／藤井 友理さん



ケアマネジャー／邑岡 志保さん



～尾道市の医療・介護連携～

人をつなぎ、地域をつなぎ、 広島の未来をつむいでいく。

この日、板阪内科小児科医院に集まったのは、全部で10人。

ドクター、薬剤師、地域包括支援センターの保健師、ケアマネジャー、ケアハウスの生活相談員、サービス提供責任者、デイサービス介護職員、福祉用具専門相談員、そして、吉本サキコさんと姪の三浦さん。全員が、サキコさん(97歳)の暮らしを支える医療・介護チームのメンバーだ。年に1回の要介護認定の更新にあわせ、チームが揃ってのケアカンファレンスが実施された。

「1年前、サキコさんと目標を立てたんです。まずは足元がしっかり元気になるよう、デイサービスに通って活動を増やしていこうって」。そう話してくれたのは、担当ケアマネジャーである邑岡志保さんだ。サキコさんは、1年前、手術をした後、要介護の判定を受けた。97歳という高齢を考えると、このまま車いすの生活になってもおかしくない状況。しかし、邑岡さんは、「サキコさんはずっと日本舞踊をやってらっしゃるなど社交的な性格。ならばデイサービスでの交流やレクリエーションが意欲につながる」と考えたのだ。結果、今回の要介護認定の更新では、要介護から要支援へ奇跡的ともいえる回復をとげた。もちろんデイサービスだけではなく、陰にはサキコさんの日々の生活を支える“チームサキコさん”の存在がある。

カンファレンスはケアに関わる全員が情報交換しながらおこなう作戦会議だ。ドクターからはサキコさんの健康状態が、邑岡さんからは新しいケアプラン^{※1}が、各メンバーからも順に報告がされ、新しいケアプラン実施にあたっての情報共有がされていく。ケアマネジャーを中心に日々、コミュニケーションはとっているのだが、自分の担当以外のことは分からないことも多い。多職種が連携を深めることはケアの質を高めるためには欠かせない。地域医療に力を注ぐ板阪医師も、「認知症の症状など、医師が診察だけで判断するのは困難。日々の状態をみている介護職からの情報は貴重」と話す。

「こんなにたくさんの方が関わってくれていると、初めて知りました」。カンファレンスを終えて、姪の三浦さんの感想だ。星の里^{※2}に来てから、サキコさんには笑顔が増えた。自分の足でしっかり歩けるようになったサキコさんは自ら、デイサービスの入口に貼られた習字の作品をちょっと自慢そうに見せてくれた。おしゃれが大好きなサキコさんは、ショッピングにでかけられるようになったことも嬉しい。邑岡さんは言う。「これからの介護職は、専門職をどれだけつなげていけるか、集まる場を作れるかが重要だと感じます。やさしさや思いやりはもちろん大切だけど、科学的根拠を持って介護をしていかなくては」。

尾道市の高齢化率は32.2%(2014年1月1日現在)、全国水準の15年先を行くと言われている。以前から医師会が中心となって地域医療連携を進め、「尾道方式」として全国にも知られるなど、医療・介護の連携が進む。

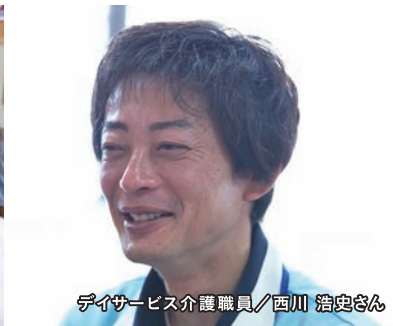
※1: 介護サービスの利用計画 / ※2: 社会福祉法人尾道さつき会が運営するケアハウス



吉本 サキコさん



姪／三浦 富貴子さん



デイサービス介護職員／西川 浩史さん



福祉用具専門相談員／伊藤 武さん



尾道市地域包括支援センター保健師／則宗 成美さん



ドクター／板阪 和雅さん





目標とライバルを持つこと。 僕、負けず嫌いなんです。

大学卒業後、関西で就職したあと地元に戻ってきました。就職先を探していた時に声をかけてくれたのが今の職場。いまは係長という立場でメンバーのマネジメントに携わっています。これからは、他事業者との競争もシビアになってくるし、団塊世代がターゲットになってくることで、求められるサービスの質も変わってくるはず。そこで、職員自身が自己評価をしたり、ご家族にアンケートを取るなどして、具体的なサービス評価をはじめました。メンバーとは、個々に話し合いの場を持って、1つのケースについて計画をいつまでに実行するのか、そして結果がでたら評価をしてカタチに残す。いわゆるPDCAサイクル[※]を実行するようにしています。もうひとつ、大切にしているのが、それぞれの専門性・得意分野を生かしてもらおうこと。うちのデイサービスには、介護福祉士、ケアマネジャー、歯科衛生士、看護師、音楽療法士など、各スペシャリストが揃っていますから、その力を存分に発揮してもらおうのも僕の役目です。本音を言えば、現場が大好きだから自分がケアに関わりたい。でも一人でやっても意味がない。チーム全員ができるようにならなければサービスは向上しないと思うんです。仕事を楽しむコツは、目標とライバルをつくること。僕、負けず嫌いなんです。今後は、デイサービスの可能性を広げるような企画にも取り組んでいきたいですね。

※ Plan(計画) - Do(実行) - Check(評価) - Act(改善) 業務を継続的に改善する手法

藤原俊雄さん(38歳)
社会福祉法人東城有栖会
シルトピア油木デイサービスセンター 相談員

- 1999年 兵庫教育大学学校教育学部卒業
- 2000年 (社福)東城有栖会就職 東寿園デイサービス
介護職員、ヘルパー2級取得
- 2001年 デイサービスセンターしらたき 介護職員
- 2003年 デイサービスセンターえがお 相談員
- 2004年 東寿園デイサービスセンター 相談員
- 2005年 介護福祉士取得
- 2007年 介護支援専門員取得
- 2009年 東寿園デイサービスセンター 係長
- 2010年 シルトピア油木デイサービスセンター 係長
- 2014年 社会福祉士取得



自分の生き方って、 変えていけると思う。

子育てしながら働ける場所を探していたときに勧められたのが、社会福祉協議会(以下社協)でした。はじめて担当したのが福祉人材バンク。福祉の仕事を紹介する部署にいて、お会いする人たちの仕事への熱意に刺激を受け、ちょうどホームヘルパーの養成研修事業を新たにはじめるところで、自分でイチから作っていきける楽しさにすっかり引き込まれてしまいました。とにかく楽しかったんですね。入社3年目には、社会福祉士資格を取ろうと佛教学の通信教育学部に入學。仕事では次々と新しい事業に関わることとなり、仕事・子育て・勉強の掛け持ちでしたが苦労だなんて思いませんでした。もっとも印象に残っているのは、権利擁護センターを立ち上げたこと。認知症や知的障害などで判断力が十分でない人の成年後見などを行う事業ですが、ただやれば良いということではなく、「なぜそれを社会福祉協議会でやる必要があるのか」、根拠を持って社協の事業に結び付け、まわりを説得していく。一段うえの経験ができたと思います。現在は社協で行っている介護事業を統括する立場です。今後別の仕事をするなら、地域にどっぷりとはまる仕事、たとえばサロン運営に関わるようなものもやってみたいですね。もし福祉の仕事に興味があるなら、大切なのはいかに関わりたいかということ。後からでも資格は取れます。人の話をしっかり聴くことができる人なら、向いていると思いますよ。

越智順子さん(53歳)
社会福祉法人呉市社会福祉協議会
地域福祉課 介護事業担当 主査

- 1981年 池坊短期大学国文学科卒業
- 1992年 社会福祉法人呉市社会福祉協議会に臨時職員として採用
嘱託職員となり、福祉人材バンク業務を担当
- 1995年 佛教学通信教育学部社会福祉学科入学
- 1997年 正規職員となり、呉地域障害者生活支援センターの
コーディネーター業務を担当
- 1998年 佛教学卒業、社会福祉士国家試験合格
- 2002年 地域福祉課へ異動
- 2004年 権利擁護の仕事を開始する
- 2008年 権利擁護センター立ち上げ
- 2010年 呉市権利擁護センター設立 地域福祉課 主任
- 2012年 地域福祉課 介護事業担当 主査



介護業界を変えていく。 それが僕の使命。

17年前、2000年の介護保険制度を見据えて、新規事業をやってくれ。そう持ちかけられたのがこの仕事に携わるきっかけでした。当時は病院経営のコンサルティング部門にいましたから、すべてが分からない事だらけ。はじめて現場に出た時はカルチャーショックを受けました。「これは、介護保険制度を上手につかかって、変えていかなくてはならない」と、介護保険導入までの国の計画表を横において、事業計画をたてるところからのスタート。最初は赤字続きで事業も思うようにならず、正直、嫌で嫌で仕方がなかった。それを支えてくれたのは、自分を頼ってくれるスタッフの存在。一緒になって、本当に良いサービスとは何かと取り組むなかで、利用者さんの生活の質があがったり、スタッフ自身の成長を感じたり、そうした積み重ねが、僕自身の原動力にもなっていました。業界の歩みを見てきて切に思うのは、「業界のイメージを変えたい、若い世代が目に向けてくれるようにしたい」ということ。若い人が入社してくれるようになって、特にその想いが強くなりました。現在は、訪問介護事業者連絡会会長として、広島県が設置している福祉・介護人材確保のための協議会就業環境改善部会委員として、広島県全体の介護人材の育成や制度改革に力を注いでいます。「キャリアビジョンがしっかりと描ける業界にする」「ワークライフバランスを実現する」。これが、僕の最大の使命だと思っています。

岡崎ジョージさん(55歳)
サンキ・ウエルビ株式会社 常務取締役 事業本部長
広島市域訪問介護事業者連絡会会長、
広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会
就業環境改善部会委員

- 1983年 獨協大学法学部法律学科卒業
- 1984年 光洋食品株式会社
(現 株式会社サンキ)入社
- 1996年 医業経営情報部 課長
- 1997年 関連事業部介護福祉課 課長
- 1999年 介護福祉事業部 課長
- 2000年 サンキ・ウエルビ株式会社
- 2001年 取締役 営業部長
- 2007年 取締役 事業本部長
- 2013年 常務取締役 事業本部長

人材育成・キャリアパス制度への取り組み
《事例》社会福祉法人尾道さつき会

一般学部・学科卒業生にも 明確なキャリアステップを用意。 働きながら資格を取得するための支援も。

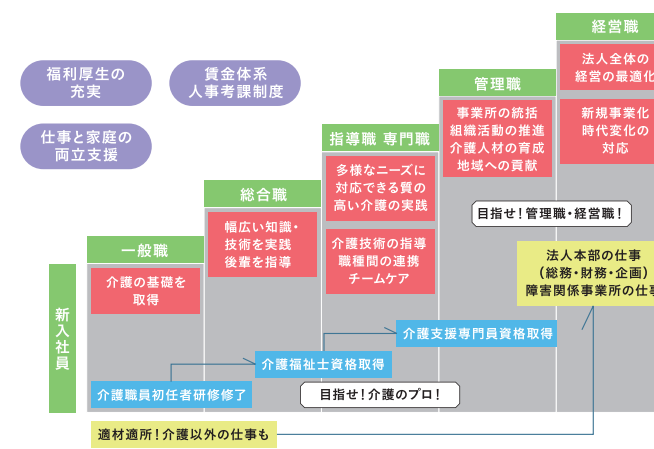
福祉・介護業界で働くためには、専門知識や技術も必要。まったくの未経験から就職した場合、どんな育成制度・キャリアステップが用意されているのだろうか？ここでは、尾道さつき会の事例を紹介する。

尾道さつき会では、ステップを明確にしたキャリアパス制度と、内部と外部を活用した体系的な教育・研修制度を整え、個々のスキルとモチベーションアップにつなげている。キャリアパス制度では、8段階の職級ごとに目標とする業務レベルと能力を設定。年齢ごとに到達したい基準年齢(年次)を設定することで、自分が今どの段階にいるのか、さらに磨きをかけるべき点はどこか、しっかりと振り返りができるようになっている。一般学部・学科卒業生向けに、介護のエキスパートになる道もあれば、マネジメント職や、企画・

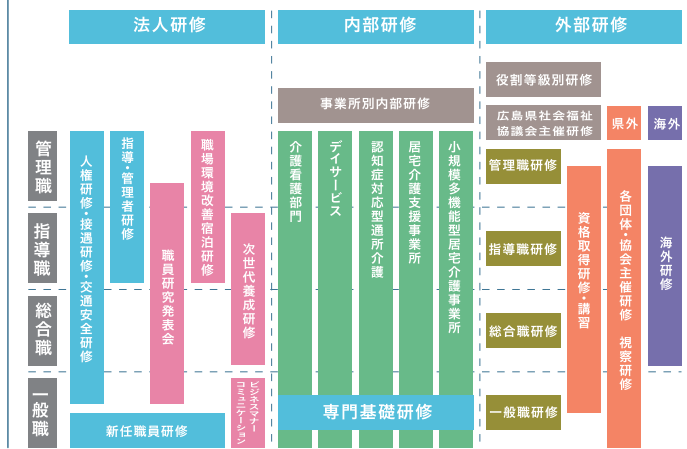
事務系職種などの道も示されていて、キャリアプランを描きやすい。教育研修制度では、部門ごとに行う専門基礎研修、法人全体で行う研究発表会や次世代リーダー研修、海外や県外などで視野を広げるための外部研修と、大きく3つの研修が用意され、年間を通じてきめ細かな研修計画が立てられている。特に、法人全体での研究発表会は、日頃の取り組みをグループごとにプレゼンし合い、その成果を法人全体で共有するとともに、モチベーションアップにも生かされている。



一般大学生のキャリアアップ 個々の希望を反映したキャリアアップ



尾道さつき会 高齢部門の研修システム

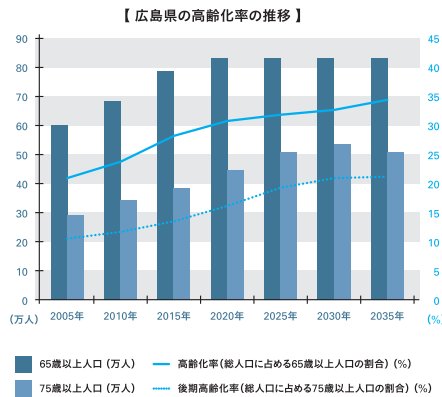


広島県の福祉・介護業界

広島県の高齢化の状況と介護マーケット

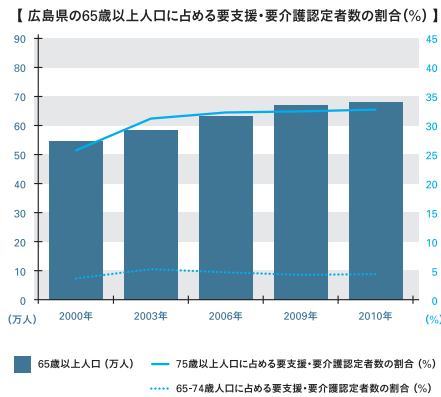
《 広島県の高齢化率は、2025年に31.8%に 》

広島県の高齢化率は2010年時点で23.9%（全国23%）、2015年に団塊世代が65歳以上となるのを機にさらに高齢化が進み、2025年には31.8%となる予測です。市町別では、最も高齢化が進んでいるのが安芸太田町で45.3%、逆に一番低いのが東広島市の18.9%と2倍以上の開きがあります。しかし今後は都市部を中心に高齢化が進む見込みで、高齢者が安心して暮らせる地域づくりが県全体ではじまっています。



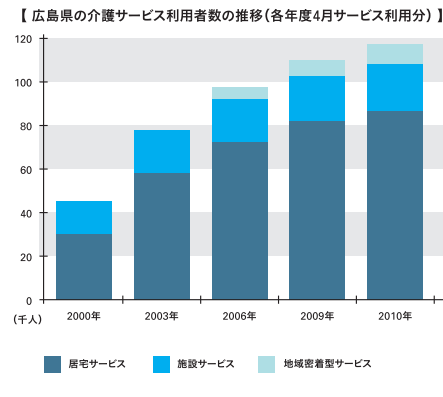
《 介護を必要とする人は75歳以上が33.5% 》

65歳以上の高齢者のうち、介護や支援を必要とする人の割合は約2割、残りの8割は介護や支援を必要としない元気な高齢者です。そのなかでも、65～74歳で、介護や支援を必要とする人は4.5%。一方、75歳以上でみると約3割と75歳をすぎるとぐっとその割合が増える傾向です。さらに2025年には、団塊世代が75歳以上となるため、介護を必要とする高齢者の数が増えると予想されています。



《 在宅でサービスを受ける人が約8割 》

介護サービスを利用している人の数も年々増加しています。最も利用が多いのが居宅サービス（訪問介護やデイサービスなど、自宅で暮らしながら利用する介護サービス）で全体の8割。また、2006年からスタートした、地域密着型サービス（小規模多機能型居宅介護やグループホーム、定期巡回・随時対応型訪問介護看護など）も、少しずつ利用を増やしています。地域とともに暮らしを支えるしくみが必要です。



COLUMN 職員自らソフトを開発。タブレット端末導入でケアの質が向上 ～現場のICT化～

介護老人保健施設 葵の園・広島空港では、タブレット端末を導入。紙からシステムに転記していた利用者情報を一括管理、データベース化することで業務効率化とサービスの質の向上に成功した。同施設では、リハビリ職や介護職、医療・看護など多職種がチームで支援にあたるが、情報共有することでより適切なケアができるようになったという。「ソフトはコンピュータが得意な職員が開発しました。徹底して使いやすさにこだわったので、最初は敬遠気味だった職員も今では端末の取り合いになるほど」。今後、更なるICT化が望まれている。



働く環境について

《 資格取得してケアのエキスパートに 》

介護の資格といえば、初任者研修修了・介護福祉士・介護支援専門員・社会福祉士がポピュラー。一方、自分の興味分野で資格を取ってキャリアを広げられるのもこの仕事の面白さ。リハビリの専門家である理学療法士・作業療法士、アートセラピストや音楽療法士も活躍しています。

【広島県の有資格者】

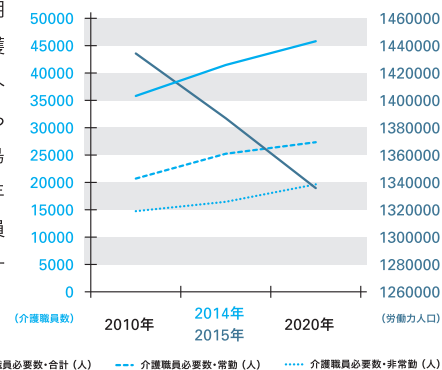
資格	登録者数(人)
社会福祉士	4,670
介護福祉士	33,351
介護支援専門員(ケアマネジャー)	15,606

※社会福祉士・介護福祉士(2014.7現在) / ※介護支援専門員(2014.2現在)

《 2020年までに約4千人の採用ニーズ 》

高齢化の進展に伴って、採用ニーズが増えているのが介護業界です。メーカーなどが海外に工場を移すなど雇用者を減らしていますが、介護業界は、広島県内でも2014年から2020年までの間に約4千人介護職員を増やす必要があると推計されています。

【広島県の介護職員の将来推計と労働力人口】



《 入居型の施設から在宅サービスまで 》

老人ホームなど入居型の施設をはじめ、デイサービスや小規模多機能型居宅介護など様々なサービス形態があります。訪問介護や、空き家を改装したデイサービスなどは、比較的初期投資が少なくすむケースもあり、なかには20代、30代で起業する人も。

【広島県の介護施設数一覧】

施設種別	介護給付サービス	介護給付サービス(予防)
居宅サービス	3,295	3,194
地域密着型サービス	687	600
施設サービス	359	—
居宅介護支援	894	—
介護予防支援(地域包括センター)	—	104

(2014.4現在)

《 事業母体は社会福祉法人から株式会社まで 》

介護業界は、今後ますます成長が期待される分野。社会福祉法人や医療法人、株式会社も事業展開しており、今後はサービスの質が問われると言われています。就職先を選ぶ際には、法人ごとの特色にも着目してみてください。

【広島県の介護施設法人数】

法人種別	数	法人種別	数	法人種別	数
社会福祉法人	211	合同会社	34	学校法人	2
社団法人	7	協同組合	14	各市町(支援センター)	15
医療法人	262	一般社団法人	16	県	1
株式会社	467	社会医療法人	5	地方独立行政法人	1
有限会社	320	財団法人	1	宗教法人	1
特定非営利活動法人	46	共済組合	1	日本赤十字社	1
個人(病院)(医師会1含む)	23	合資会社	4		

(2014.4現在)

COLUMN

「迷ったときはここに来て下さい」～広島県介護福祉士会・若者会“絆”～

広島県の若手介護職を支える活動をしているのが、若者会の「絆」。施設や地域を超えてネットワークを築くことで、視野を広げたり悩みを相談しあったりしながら自ら成長できる場をつくろうと活動している。活動の基本は月に1回の「月イチ交流会」。テーマを設けてのディスカッションや、ゲストを招いての講演会・勉強会などを行う。代表の吉岡俊昭さんは、「絆の会は誰がきてもいいんです。現役介護福祉士、介護福祉士を目指す学生、介護職に興味がある人。本音で語り合っ、リフレッシュしてもらえたら」という。



【お問い合わせ】 TEL 082-254-3016 FAX 082-254-3017

広島県社会福祉人材育成センターは福祉職場への就職を応援します!!

福祉のお仕事に興味・関心をもっている人に、無料相談や職業紹介を行っています。お気軽にご連絡ください。

福祉の就職相談や資格取得に関する情報提供

施設・事業所見学等の案内

福祉の職場体験の案内

当センターが取り扱う求人面の面接調整や紹介状の発行

福祉の施設・事業所が集まる就職面談会や相談会の開催

(社福)広島県社会福祉協議会
人材研修課(広島県社会福祉人材育成センター)

〒732-0816
広島市南区比治山本町12-2 広島県社会福祉会館(1F)
TEL 082-256-4848 HP <http://www.hiroshima-fukushi.net>

